

■国際かんがい排水委員会の会議の担当部会に日本代表で出席

国際かんがい排水委員会（ICID）は、世界のかんがい排水分野を半世紀以上にわたりリードしてきた国際的な非政府組織です。参加国の国内委員会を構成メンバーとし、国際会議などを通して、技術情報の交換と研究者や技術者が交流する場となっています。農林水産省に「日本国内委員会」が置かれ、農林水産省農村振興局整備部設計課海外土地改良技術室が事務局となっています。10月12～15日にインドネシアのジョグジャカルタで開催された第61回ICID執行理事会に、私（地球温暖化対策研究チーム長 増本隆夫）が洪水総合管理作業部会における日本代表として出席し、この後の農業と洪水を取り巻く課題と今後の対応について検討しました。

特に、パキスタンにおける大洪水の報告は、部会だけでなく各国代表者会議でも披露され、その被害の甚大さに皆が驚かされました。そこで、同部会が中心なり、UNDPの支援のもと、関連のワークショップを近々にパキスタンで開催することも満場一致で決定されました。



この会議には全世界の研究者・技術者・政策決定者が集まり、その全体構成は、灌漑や排水に関する今後の方向を決定していく執行理事会と、研究発表が行われるアジア地域会議です。



担当の部会では私が事務局長を務めています。現在求められているのは、地球温暖化等の話題を入れ込んだ、新たな今後5年間の活動計画の策定です。（テーブルに向かって右端が増本）



最も話題をさらったのが、パキスタンでの大洪水の状況です（左図参照）。国連開発計画（UNDP）の支援を得て、ICIDの洪水総合管理作業部会、パキスタン政府、同国水資源省が共同で支援のための緊急ワークショップの開催が決まりました。